

## 公 安

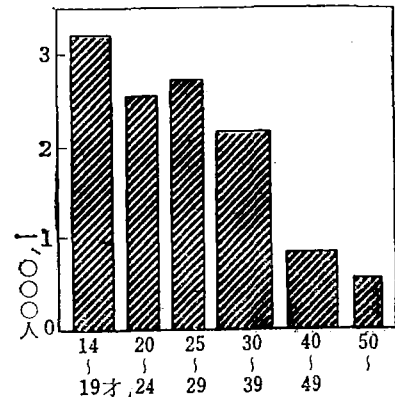
### 106. 犯罪発生件数と検挙人員

戦後混乱した社会には犯罪も多く、昭和24年には30,027件と最高に達し、以降社会の安定につれて次第に減少した。しかし30年頃より再び増加傾向があらわれ37年は28,187件の発生をみ、これは23年以来4番目に多い発生件数である。

なお、この発生状況を地域別にみると千葉、船橋、市川の国電沿線都市に多くみられる。

また、罪種別では、窃盗犯が62%を占め、ついで粗暴犯の12%がこれにつき多い。つぎに検挙されたものを年齢別にみると青少年(14~24才)犯罪の割合が全体の過半数を占めこの傾向は年々多くなり社会的見地からみてもゆゆしき問題である。

年齢階級別検挙人員 (昭和37年)



年	発 生 件 数						
	総 数	兇 悪 犯 計	(内)殺人	(内)強盗	(内)窃 盗	(内)粗 暴 犯	(内)知 能 犯
昭和 23 年	27 027	582	70	436	21 144	1 436	2 459
24	30 027	688	87	457	22 062	1 916	3 423
25	27 955	632	61	393	18 945	2 305	4 389
26	29 547	420	82	199	20 695	2 373	3 842
27	26 521	393	92	159	17 729	2 669	3 782
28	24 700	381	67	161	16 827	2 393	3 176
29	23 131	411	48	182	15 410	2 364	3 032
30	24 247	428	64	174	15 806	3 104	2 666
31	24 364	396	69	144	15 389	3 678	2 251
32	25 506	413	46	186	16 771	3 226	2 149
33	25 507	446	64	151	15 755	4 099	1 836
34	26 174	369	58	106	16 413	4 040	1 648
35	28 300	473	51	157	17 599	3 678	1 658
36	27 122	376	53	105	16 822	3 349	1 526
37	28 187	378	57	84	17 471	3 378	1 365

罪 種	年 令 階 級 別 検 挙 人 員						
	総 数	14~19才	20~24	25~29	30~39	40~49	50~
昭和 37 年	12 045	3 201	2 554	2 724	2 153	841	572
(検 挙 率)	67.6	—	—	—	—	—	—
兇 悪 犯	373	136	90	84	40	11	12
(内)殺人	55	9	3	19	13	5	6
(内)強盗	91	36	23	23	7	2	—
窃 盗	2 551	1 192	415	421	305	129	89
粗 暴 犯	3 098	914	747	679	474	160	124
知 能 犯	523	37	58	122	141	91	74
風 俗 犯	209	28	30	55	63	19	14
そ の 他	5 291	894	1 214	1 363	1 130	431	259

県警察本部防犯課調 注) 刑法犯による数であり、検挙率は発生件数に対する検挙件数の割合である。